

平成29年度 南丹広域振興局 運営目標

番号	運営目標	ページ	数値目標
1	森の京都の魅力発信・交流拡大を進めます。	1	○
2	京都丹波の持つ豊かな「食」、「木材」等を活かした、新たなブランドづくりを進めます。	2	○
3	京都丹波の特産農産物等の生産拡大、品質向上を図ります。	4	○
4	大都市に近く、暮らしやすい強みを活かした移住・定住対策を進めます。	6	○
5	地域協働団体等との協働による地域づくりを推進します。	7	○
6	「子育て王国 京都丹波」を推進します。	7	○
7	府民協働・府民参画による取組を推進し、地域の自主的な取組を支援します。	8	○
8	南丹高校テクニカル工学系列等と地元パートナー企業との連携による人材育成を進めます。	8	○
9	畜産経営や新規就農者など次代の京都丹波の農畜産業を支える担い手を育成します。	9	○
10	障害者等の自立支援のため「福祉農業」を推進します。	10	○
11	ICTを活用した小学生向け環境学習を実施し、地球温暖化防止等の意識醸成を図ります。	11	○
12	中小企業支援イノベーション創出支援や商店街等活性化支援により地域の元気づくりを進めます。	11	○
13	あらゆる危機事象への迅速・的確な対策を講じ、安心・安全で住みやすいまちにします。	13	○
14	地域ぐるみで支え合う京都丹波づくりを推進します。	15	○
15	安心・安全な災害に強いまちづくりを推進します。	18	○
16	交流の拠点となる基盤を整備し、多くの人を呼び込みます。	20	
17	地域産業や地域活力を支えるため広域交通ネットワークを整備します。	20	
18	若手人材育成等振興局推進体制の強化を図ります。	21	

運営目標数	18
うち数値目標	15

平成29年度 南丹広域振興局 運営目標

運営目標	
1	森の京都の魅力発信・交流拡大を進めます。
達成手段 (数値目標)	<p>「森の京都」の取組の成果を次代へ繋ぐとともに、文化、食、スポーツを通じて、地域が一体となり、地域の資源・魅力を交流拡大に活かします。</p> <p>① 「京都丹波・森の文化祭(仮称)」を開催し、地域の伝統・文化を次世代に継承するとともに地域との交流を拡大します。 <来場者数 10,000人(29年度新規)></p> <p>・京都丹波の食材の魅力を発信するイベントを道の駅等で開催(「道の駅プロジェクト」)し、利用者数の増加、交流を拡大します。 <道の駅利用者数 400万人[購買者数・レジカウンター](28年度実績365万人)></p> <p>京都丹波まるごとスタジアム化によるスポーツ観光や地域の賑わいづくりを推進します。</p> <p>・全国規模の大会を誘致し、地域の魅力を発信し、スポーツによる観光振興を進めます。 トレイルランニング大会(丹波広域基幹林道)、トライアスロン大会(大堰川)</p> <p>② ・親子でふれあう「キッズスポーツふれあい広場」を丹波自然運動公園で開催し、トレセンの利用促進を図ります。 <イベント来場者数 3,000人(28年度実績 3,000人)></p> <p>・スポーツと観光を組み合わせた体験プログラム数 <2件(累計10件)(28年度実績 2件(累計8件))></p> <p>・「京都スタジアム(仮称)」整備を活かし、商店街活性化をはじめとする賑わいの街づくりを亀岡市等と連携して推進します。</p>

運営目標

2 京都丹波の持つ豊かな「食」、「木材」等を活かした、新たなブランドづくりを進めます。

<p>達成手段 (数値目標)</p>	<p>① 豊かな食材に焦点をあて、農産物直売所や道の駅等と一流ホテルとのコラボによる新たな料理開発や、それを通じた「食材」の見える化、マーケット・メディアへのアクセスを促進することにより、食材供給拠点としての「農産物直売所」の機能拡大、おいしい料理が味わえる「京都丹波」の魅力アップを図ります。</p> <p><ホテル総料理長との「京都丹波イチ推しの食」料理共同開発：新メニュー7品(累計15品)(29年度新規)> <特Aキヌヒカリ×イチ推し食材による「森のごはん」コンテスト(仮称)開催：出品30品、定番商品化10品(29年度新規)> <共同開発新メニュー等の道の駅等での売上：3万食(28年度実績 4.2千食)> <レシピサイトへの「京都丹波イチ推しの食100選」料理レシピの掲載：50品(28年度実績100品：累計150品)、アクセス数30万件(29年度新規)> <農産物直売所の売上拡大：プラス1億円(累計23.5億円)(28年度実績：22.5億円)></p>
	<p>② 京都丹波の京野菜などの豊かな「食材」を活かした新たな京都丹波ブランド商品開発を行い、その原材料について、農業者、管内立地企業、販売者などが協働し、生産から流通まで一貫したオール京都丹波地域のシステム構築を図ります。</p> <p>・京都丹波ブランド商品の開発や生産システム構築のためのプラットフォームの構築 ・京都丹波ブランド商品の開発や生産システム構築のための農業者、管内立地企業、販売者からなるプラットフォームの構築</p> <p><京都丹波アグリネット等を活用した新たな商品の開発数 新規4件(累計17件)(28年度実績：新規2件(累計13件))></p>
	<p>③ 京都丹波の特産である五色の豆「小豆(赤)、黒大豆(黒)、紫ずきん(紫)、大豆(黄)、京白丹波(白)」を活かしたスイーツコンテスト等の開催を通じてその魅力を広く発信するとともに、新商品開発や生産拡大に結びつけていきます。</p> <p><「京都丹波豆ONEグランプリ2017」の開催：出品30点、商品化：3点(29年度新規)></p>
	<p>④ 地元産材を使った食器・小物等を商品化し、一般消費者の目に見える形で良さを訴えることで京都丹波材のブランドづくりを推進し、地元産材の需要拡大を図ります。</p> <p>・生活の身近なシーンでの木製品の利用を増やす「木づかい運動」の展開</p> <p><商品10点開発(29年度新規)> 製材事業者、工芸作家、飲食店、商社等からなる研究会の立ち上げ 地元産材を活かした木工品を開発し、東京インターナショナルギフトショー春に出展</p>

運営目標

<p>⑤</p>	<p>南丹地域の特徴を分析して、管内の特色を活かした木材の良さを発信するとともに、地域の森の魅力をアピールしファンを増やすため、南丹地域等の企業を訪問し、南丹の木材をPRするとともに、企業からのニーズや木製品化の意見を聴取する。 <南丹地域等の企業訪問 50社(29年度新規)> <一般府民を対象に管内の山の魅力を知らせる講演会や山の見学会を開催 参加者120人(28年度実績100人)></p>
<p>⑥</p>	<p>京都丹波の匠・職人をネットワーク化を図り、産業観光を振興することにより、匠の技が今に息づく地域・京都丹波の認知度をより高めます。 ・「森の京都・匠ビレッジ事業」の実施 <森の京都関連イベントでの「匠の職人展(仮称)」の開催1回(28年度実績:1回)> ・新光悦村への工房誘致の実施 <関係課と連携した新光悦村でのイベントの開催 1回(28年度実績:1回)></p>
<p>⑦</p>	<p>「京都丹波・写ガール隊」による森の京都ならではの地域の魅力をフェイスブック投稿やCATV番組制作等により、国内外に向けて情報発信。 <京都丹波ブランド発信 500件(28年度実績 450件)> <広報大使として活躍 15件(28年度実績 13件)></p>

運営目標

3 京都丹波の特産農産物等の生産拡大、品質向上を図ります。

達成手段 (数値目標)	<p>府酒造連が要望する酒米の収量・品質向上を図るため、現地調査、研修会、技術情報の発行等を行い技術啓発を行います。</p> <p>① <「祝」: 反収380kg、一等米比率50%(28年度実績: 反収358kg、一等米比率39%)> <「京の輝き」: 反収530kg、一等米比率90%(28年度実績: 反収518kg、一等米比率84%)></p>
	<p>和菓子業者等の要望が高い京都丹波産黒大豆や小豆の作型変更や情報や研修会による技術支援を行い、気象条件に負けない収量確保を図ります。</p> <p>② <「黒大豆」: 早まき体系を確立し、慣行と同等の反収112kg確保(5月播種+摘心栽培)(28年度実績: 6月播種・無摘心反収112kg)> <「小豆」: 倒伏防止のため摘心栽培を導入し、調査ほ場反収180kg/10a(28年度実績: 150kg/10a)></p>
	<p>③ 市場からの要望が高い「黒大豆枝豆」において、大規模(2ha規模)経営が可能なモデルの提案 <2ha規模で「京夏ずきん」を加えた「黒大豆枝豆」栽培モデルの実施経営体: 1経営体(28年度実績: モデル策定)></p>
	<p>④ ビール麦については実需者からの要望量の達成を図り、亀岡産麦芽100%ビールづくりを進めます。 ・<播種時期変更と追肥の徹底による需要量150tの確保 (28年度実績: 90t)> ・<実需者に対し亀岡産麦芽100%ビールづくりを提案する 1社(29年度新規)></p>
	<p>⑤ 丹波くりのブランド化と生産者の栽培意欲向上のために、兵庫県と合同で品評会を広域に実施する。また、丹波くりの生産量増大を目的に、新規の栗生産者を確保するため、栽培技術講習会等を実施する。 ・兵庫県と合同で丹波くり広域品評会を開催 <新規の栗生産者を対象にした担い手研修会の開催 受講者延べ人数100名(2880名)> <JAの丹波くり部会員を対象に情報冊子を作製・配布し最新情報の提供を行う。 4回/年(29年度新規)> <栽培面積の拡大を図るため、水田利用のモデル団地の設定 2か所(29年度新規)> <耕作放棄地(再生可能な農振農用地)の解消面積 10ha(28年度実績 8ha)></p>

運営目標

	<p>森林の荒廃を防止するとともに林業振興のため、森林組合を指導し間伐の実施面積拡大を図り、間伐材の搬出量及び製材加工量を増加させます。 また、府民に木質バイオマス利用に関する連絡会議を立ち上げ、普及啓発をすることで、地域循環型の木材利用を促進する。</p> <p>⑥ <管内の間伐材搬出量 47,500m³(28年度実績見込み 45,000m³)> ・木質バイオマス利用に関する連絡会議の立ち上げ <木質バイオマス利用促進イベントの開催 2回(29年度新規)> ・木質バイオマス利用促進パンフレットの作成 <地域内で製材加工される量 15,000m³(28年度実績12,000m³)></p>
	<p>捕獲鳥獣の有効利用推進 捕獲した鳥獣の有効利用を進めるため、シカ等の食肉解体処理技術の研修会及び試食会を実施し、ジビエ利用の拡大を図ります。</p> <p>⑦ <研修会 1回(29年度新規)></p>

運営目標

4 大都市に近く、暮らしやすい強みを活かした移住・定住対策を進めます。

<p>達成手段 (数値目標)</p>	<p>① 産学公連携による「京都丹波移住・定住促進協議会」を核にして、就職、起業・創業、子育て、住まい等に関する情報を集約し、ターゲット(移住希望者)に応じ、新しい生き方、暮らし方のノウハウを発信する「暮らしの参考書【住まい編等】」作成や、ワークショップ開催、管内の移住・定住に係る情報を取りまとめたホームページでの情報発信、都市部、現地でのセミナー、ツアー等を実施し、京都丹波への移住定住を促進します。</p> <p><京都移住コンシェルジュや市町村の窓口等を活用した新規移住者の受入150人(28年度実績58人)> <都市部の住民を招いた京都丹波の暮らしや企業等を知るセミナー・ツアーの開催 10回(28年度実績6回)> <里の公共員を配置し、地域再生活動に取り組む地区数(6地区) (28年度実績 5地区)> <ワンストップ相談窓口を活用した農家民宿の開業支援 10戸 (28年度実績 7戸)></p>
	<p>② 教育体験民泊受入農家や地域組織、学校、旅行事業者、行政が一堂に集う「京都丹波・教育民泊フォーラム」(仮称)を開催するなど、教育体験による都市農村交流の普及、定着を進め、内外の交流を生み出します。</p> <p>・「京都丹波食と森の交流協議会」を受皿に推進してきた「教育体験民泊」について、森の京都DMOとの機能分担を進めること等により、大規模な学校も受入可能なワンランク上の取組へとステップアップを図るとともに、教育体験民泊を通じた受入家庭の連帯感や地域の活力をさらに高めていきます。</p> <p><教育体験旅行の受入 60団体、3,600人(教育民泊:1,000人)(28年度実績 53団体3,259人(786人))> <「森の京都・教育民泊フォーラム」(仮称)開催:参加者200人(29年度新規)> <「教育民泊女子会」の拡大:女子会参加者50人(29年度新規)></p> <p>・受入が増えつつあり継続性が見込める地域において、京都丹波・食と森の交流協議会と連携しながら、地域ぐるみで継続して宿泊型教育体験に取り組む受入体制づくりを支援します。</p> <p><京丹波町梅田地域(梅田地域振興会を中心とする体制づくり) 受入を地域全体に拡充する地域 1地域></p> <p>・地域活性化を目指す農家民宿を核とした地域において、地区住民を対象にした情報発信(チラシやCATVなど)の強化や新たな体験メニュー(味噌づくりなど)づくりなどにより、受入体制づくりを支援します。</p> <p><南丹市美山町下平屋、京丹波町妙楽寺 受入を地域全体に拡充する地域 2地区></p>
	<p>③ 住みたくなる京都丹波特集番組を制作し、南丹市・京丹波町のケーブルテレビやYouTubeで情報発信。</p> <p><京都丹波・写ガール隊による番組制作 5本(28年度実績 5本)></p>

運営目標

5 地域協働団体等との協働による地域づくりを推進します。

達成手段 (数値目標)	①	振興局と地域団体との協働により「森の京都」をテーマとした地域文化の振興をはじめ地域との共生により地域の再生を図ります。 ＜地域力再生交付金等を活用したプラットフォーム数 30件(28年度実績 34件)＞
	②	地域活動団体や企業等と協働した、次世代の育成を推進します。 ＜子どものための文化体験の数 35件(28年度実績 28件)＞ ＜子どもの社会体験事業数 30件(28年度実績 25件)＞
	③	保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学等と連携事業に取り組み、世代間交流を推進するとともに、人材育成を図ります。 ＜幼小中高大連携の取組件数 12件(28年度実績 15件)＞

6 「子育て王国 京都丹波」を推進します。

達成手段 (数値目標)	①	子育て支援団体が中心となり、多世代の住民(自治会等の単位)が交流しながら地域全体で子育て家庭を応援する仕組み(「子育てわくわくご近所応援団」)をクリスマス会など季節の行事に年間を通じて積極的に取り組むなど、一層推進します。
	②	子育て支援団体のリーダーを対象とした講座(子育て支援リーダー養成塾)を市町と連携しながらきめ細かく開催します。 ＜講座開催:3回(各市町毎に開催)(29年度新規)＞
	③	産前・産後ピアサポーターのスキルアップを図り、切れ目のない地域の母子保健及び子育て支援の仕組みを構築します。 ＜スキルアップ研修会・ネットワーク会議の開催 合計3回(29年度新規)＞

運営目標

7 府民協働・府民参画による取組を推進し、地域の自主的な取組を支援します。

達成手段 (数値目標)	①	工事説明会、見学会、ワークショップを開催して、地域住民の意見を取り入れて道路、河川の整備を推進します。 教育局と土木事務所とのコラボ事業 <コラボ事業の実施:3校(28年度実績 0校)>
	②	児童等が安全に通学できるよう、通学路の整備を推進します。 通学路等の歩道整備の計画的な推進:王子並河線(亀岡市大井町~河原町)、園部停車場線(南丹市小山東町)、 桧山須知線(京丹波町須知)など11箇所を実施
	③	「保津川かわまちづくり」を推進します。 保津川下りの周辺整備に向けた関係機関との調整を実施
	④	アユモドキとの共生・保全を進めます。 桂川やその支川について、地元及び有識者と連携し、生息環境の保全に向けた調査を実施

8 南丹高校テクニカル工学系列等と地元パートナー企業との連携による人材育成を進めます。

達成手段 (数値目標)	①	地元のものづくり企業や南丹高校テクニカル工学系列等と連携し、地域一体となった、ものづくり人材の育成を推進します。 ・行政・経済団体等からなる京都丹波中小企業支援Aチームと地元企業が教育現場と連携し、さらに地元の住民も巻き込んだ南丹ならではの人材育成の推進 <南丹高校テクニカル工学系列等における人材育成事業(企業見学、インターンシップ、企業からの講師派遣等の支援) 参加人数 80人 (28年度実績 72人)> <南丹高校生徒・保護者等を対象とした工場見学会等の開催 2回(28年度実績:1回)> <南丹高校キッズパークの開催 参加者数750人 (28年度実績:約700人)>
	②	京都ジョブパーク、ハローワーク等との連携により、京都丹波地域における雇用や就業を支援します。 ・ニーズの把握と人材マッチングの実施 <管内企業の雇用ニーズの把握 130社(28年度実績:123社)> <京都丹波ミニ企業説明会の開催 2回(28年度実績:2回)>
	③	企業雇用と連携させた企業セミナーや京都丹波企業ツアーなどの取組で、移住・定住促進に必要な雇用の確保を進めます。 ・都市部の住民・学生を招いたUIJターンのセミナー・ツアーの開催 <京都丹波の暮らしや企業等を知るセミナー・ツアーの開催(10回)(28年度実績:2回)>【再掲】

運営目標

9 畜産経営や新規就農者など次代の京都丹波の農畜産業を支える担い手を育成します。

達成手段 (数値目標)	①	<p>京都丹波の意欲ある若手農業経営者を対象に、京都学園大学、農林水産技術センター、南丹広域振興局による「地域人材の育成に関する連携協定」を活かし、雇用や加工など新たな起業のきっかけづくりとなる農起業塾を開催するなど、経営力のある農業者を育成します。</p> <p><雇用や加工など新たな起業に踏み出す農業経営者 3名、5回開催(29年度新規)></p>
	②	<p>「京都丹波生まれの和牛」づくりなど京都丹波の畜産生産基盤の拡大を図るため、京都大学、食肉企業等と連携し、「京都丹波和牛塾」や「畜産経営継承支援塾」等を開設します。</p> <p><京都丹波和牛塾に参加し新たに和牛繁殖経営に着手する経営体、肥育部門に加え繁殖部門の導入に取り組む経営体2(各1)経営体、3回開催(29年度新規)></p> <p><畜産経営継承支援塾による、養豚自動給餌システム等の新技術活用や安心安全な畜産物生産技術の習得に取り組む畜産後継者等 40人、4回開催(28年度実績 25人)></p>
	③	<p>農業の新たな担い手の確保・定着を図ります。</p> <p>①就農を控えた人が計画どおり就農できるよう農地確保及び資金借入れを含む施設・機械等の整備に係る各種手続き等準備の助言・スケジュール管理を行うとともに、認定新規就農者に認定されるよう青年等就農計画の作成を伴走支援します。</p> <p><青年等就農計画認定を支援 11人(28年度実績 13人)></p> <p>②定年退職等して就農する人が営農技術と機械メンテナンスを習得して農地保全等に貢献する技術習得を支援します。</p> <p><基礎講座4回(受講者20人)(28年度実績 講座4回(受講者16人)></p> <p>③資金借受者が資金利用計画どおりの営農が進むよう伴走支援します。</p> <p><資金借受者全員 15人(28年度3人)></p>
	④	<p>更なる経営発展のためチャレンジする農業経営体の目標実現を支援し、地域を牽引する担い手を育成します。</p> <p>・経営革新、規模拡大などに取り組む農業経営体を京都丹波農業応援隊と連携しながら伴走支援を行います。</p> <p>①<企業の法人(4法人)が年間販売額1億円以上を目指し、年度別売上目標を達成できるよう伴走支援します。(28年度実績 4法人)></p> <p>②<大規模(3~10ha規模)水稻経営志向農家が年度別目標面積を達成できるよう伴走支援します。 4戸 (29年度新規)></p>
	⑤	<p>国営ほ場整備地区について、関係機関から構成される「国営亀岡中部地区 営農検討チーム」が集落段階の取組を促進することにより、整備後の営農を担う組織づくりを進めます。</p> <p><国営ほ場整備地区内で新たな営農組織づくりを開始 新たに2集落(28年度実績 1集落)></p>

運営目標	
	<p>⑥ 持続可能な地域営農の仕組みづくりに向け、関係機関から構成される「京都丹波農地利用推進チーム」が中心となり、農地中間管理事業をはじめとする施策も活用しながら、個別の集落に働きかけ、地域内の話し合いを促進し、地域農業の指針となるプランづくりを進めます。 <京力農場プラン作成集落数 10集落(29年度新規)> <集落型営農法人数 27法人(28年度実績 累計26法人)></p> <p>⑦ 農村地域の次代の担い手育成を目指し、府立農芸高校生へ管内の土地改良の現場で「ほんまもん」の技術を伝承します。 <農芸高校と連携し、中山間保全基金・教育パートナーシップ活動(農業農村アプレンティスシッププログラム)を実施 2回(28年度実績 4回)></p>
10	障害者等の自立支援のため「福祉農業」を推進します。
達成手段 (数値目標)	<p>① 【障害のある人の自立支援】 ・なんたん障害者就業・生活支援センターを始め、ハローワーク、京都ジョブパーク等と連携して障害者の新規就労を創出するとともに、農業所管室等と一緒に農福連携の取組を進めます。 <新規一般就労 35人(28年度実績 33人)> <農福連携参加事業所:4箇所(29年度新規)> ・京都丹波オリジナルブランド「ぬくもり京都丹波」の販売促進のため、品質向上技術や目を引く商品アピール技術の習得など販売促進技術研修の開催を行うとともに、イベントへの出店による販売、優先調達の呼びかけ等を行い、障害者の平均賃金の向上に向けた取組を進めます。 <平均工賃:月額20,000円(28年度実績 17,800円)></p>

運営目標

11 ICTを活用した小学生向け環境学習を実施し、地球温暖化防止等の意識醸成を図ります。

達成手段
(数値目標)

- ① 地球温暖化防止等の意識醸成を図ります。
 ・次代を担う小学生に対して地球温暖化防止等の周知を継続すべく「京都丹波未来っ子環境スクール～学校で家庭のCO2削減～」を実施(バイオマス利活用等の京都丹波地域の取組も説明するとともに、大学生や関係団体と協働等)し、身近な温暖化防止対策を推進します。
 <ICTを活用した環境学習(モデル事業)を2校程度で実施(29年度新規)>
 <②⑦～③⑩の4年間で管内小学校を一巡 全30校中、29年度9校(27～28年度17校)>
 ・管内の環境活動に関する情報を、事業者や府民の方を対象に、市町と一体的にSNS発信します。
 <月2回以上(29年度新規)>

12 中小企業支援イノベーション創出支援や商店街等活性化支援により地域の元気づくりを進めます。

- ① 京都丹波中小企業支援Aチームを中心に、行政や団体等のチーム力を発揮し、中小企業のイノベーション創出をサポートします。
 ・優れた技術を持つ京都丹波地域のものづくり企業と大手企業が一堂に会するマッチング会や、伴走支援をはじめとする活動の推進
 <ビジネスマッチング会の開催 1回(29年度新規)>
 <経営のお役立ち情報をタイムリーに情報提供：メール配信 180回(28年度実績:165回)>
 <経営の安定・発展を目指す中小企業へ助成金・補助金等の活用支援：30件(28年度実績:34件)>
 <京都府認証制度等(経営革新承認・元気印中小企業認定・知恵の経営認証等)の認定取得サポート：サポート企業数 10社(28年度実績:9社)>
- ② 電力需要の多い夏や冬に商店街や道の駅等に消費者を誘客することによって家庭のピーク電力をカットするとともに、地元事業者等の振興を図ります。
 ・おでかけCOOLクーポンの配信とPRイベントの開催
 <クーポンの配信 1商店街、2道の駅(29年度新規)>
 事業を推進する若手経営者等によるワーキンググループの設立

運営目標

達成手段 (数値目標)	<p>③ 京都丹波地域への企業立地や立地企業の高度化(増設等)を促進し、ものづくり産業の振興、雇用の創出を図ります。 ・地元企業からの情報収集による流出防止や管内での事業拡大への協力 <企業立地、事業高度化(増設等)企業数：10件(新規立地3、増設等7)(28年度実績:5件(新規立地3、増設2)> <新規雇用：100人(28年度実績:56人)></p>
	<p>④ 地元の企業・経営者団体・行政が、先端技術を持つ大手企業や経済産業省・大学等と連携して実施する、エネルギーの地産地消化や新ビジネス創造事業による雇用創出、地域経済活性化を図ります。 ・「京都丹波版EMS(エネルギーマネジメントシステム)地方産業創生プロジェクト事業」の推進 <フィジビリティ・スタディの検証によるビジネスモデルの策定 1件(29年度新規)></p>
	<p>⑤ 若者目線での域内観光資源の発掘と若年層の郷土愛の醸成を図るため、大学生・高校生による観光プランコンテストを開催し、森の京都DMOによる商品化につなげます。 ・京都丹波観光プランコンテストの開催 <京都丹波観光プランコンテストの開催 年1回(28年度実績 1回)></p>
	<p>⑥ オール京都丹波による国内外からの観光誘客やお客様の受入体制の整備等を推進することにより、観光入込客数及び観光消費額の増加を目指します。 ・管内2市1町と連携した「京都丹波観光協議会」、中丹局、丹波県民局とも提携した「大丹波連携」によるPR活動や各種媒体による情報発信などの誘客事業を実施 <京都丹波地域への観光入込客数：800万人(※28年実績は29年7月公表予定)> <観光客一人当たりの消費額：2,500円(28年度実績:29年7月公表予定)></p>
	<p>⑦ 市町・観光協会及びDMOと連携し効果的な観光誘客活動を展開します。 ・管内の施設・イベントとタイアップした観光PRの実施 <道の駅京丹波味夢の里における「夏の観光キャンペーン」の実施(1回)> <京丹波食の祭典2017における「秋の観光キャンペーン」の実施(1回)> <JR西日本とタイアップした「春の観光キャンペーン」の実施(1回)></p>
	<p>⑧ 地元産材を使った食器・小物等を商品化し、一般消費者の目に見える形で良さを訴えることで京都丹波材のブランドづくりを推進し、地元産材の需要拡大を図ります。【再掲】 ・生活の身近なシーンでの木製品の利用を増やす「木づかい運動」の展開 <商品10点开発(29年度新規)> 製材事業者、工芸作家、飲食店、商社等からなる研究会の立ち上げ 地元産材を活かした木工品を開発し、東京インターナショナルギフトショー春に出展</p>

運営目標

13 あらゆる危機事象への迅速・的確な対策を講じ、安心・安全で住みやすいまちにします。

<p>達成手段 (数値目標)</p>	<p>あらゆる危機事象への迅速かつ的確な対応を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力防災に係る情報の共有化を図るため、環境放射線調査車やモニタリングポストによる放射線監視体制を確保するとともに、観測データを府及び原子力規制庁のHPで随時公表します。 ・災害発生時に迅速に広域防災活動拠点を開設するため、本部展開訓練を実施します。 <p>① <本部展開訓練 2回(28年度実績 2回)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府水害対応訓練等において、タブレット端末やweb会議システムを活用した情報伝達訓練を実施します。 <p><2回以上(29年度新規)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震や水害、原子力災害を想定した防災訓練を、管内市町や関係機関と連携して実施することにより、様々な災害への対応力を強化します。 <p><管内市町が実施する総合防災訓練等でドローンを活用した情報伝達訓練を1回以上実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ・違法開発案件等を未然防止・拡大防止するため、「南丹広域機動班」として関係機関と連携して、パトロールを実施します。 <p><関係機関による担当者会議を毎月実施></p>
	<p>② 災害に強い道路、河川等基盤整備を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 園部川(横田工区):河道内樹木の伐採等の実施 綾部宮島線(肱谷バイパス):橋梁詳細設計の実施 園部平屋線(殿田工区):用地買収の推進
	<p>③ 道路、河川等のインフラについて、アセット・マネジメントの手法による効率的、効果的な管理を推進します。</p> <p><京都丹波の道・長寿プランに基づき、橋梁 189橋(全体653橋)、舗装 8km、道路標識30基(全体388基)の点検を実施(28年度実績 橋梁129橋、舗装8km、道路標識69基)></p>
	<p>④ 高病原性鳥インフルエンザ等の机上演習によるシミュレーションの徹底を図り、警察、市町、団体、府連携による円滑な防疫体制を強化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜保健衛生所その他管内関係機関と連携し、南丹管内高病原性鳥インフルエンザマニュアル等に基づき、初動対応や各組織の役割分担、行動を確認、点検するとともに、シミュレーションの徹底を図り、発生時の警察、市町、団体、府連携による円滑な防疫体制を図ります。 <p><高病原性鳥インフルエンザ等 机上演習 1回(新規)、防疫研修会 1回(1回)、スターターチーム実地研修会1回(1回)、スターターチーム実地演習1回(1回)></p>

運営目標

⑤ 家畜保健衛生所と連携し、有事の際の体制の強化を図ります。
 <口蹄疫発生に備え特に規模の大きい牛飼育農家についてモデル的に埋却予定農場の事前調査計画
 3農場(H28年度まで実績5農場) >

地域ぐるみの野生鳥獣被害対策を支援し、集落の力を結集して鳥獣被害対策に取り組み、安心して農作物が栽培できる集落をつくります。

・地域ぐるみの野生鳥獣被害対策診断事業

市町、南丹局農林商工部、農林水産技術センター、専門家による鳥獣被害対策診断チームを編成。各集落の被害状況を詳細に調査・診断して対策カルテを作成し、地域ぐるみの防除活動を支援します。集落の力を結集して鳥獣被害対策に取り組み、安心して農作物が栽培できる集落をつくります。

<20集落(29年度新規)>

⑥ ・ニホンザルの被害対策

農作物を守るため、サルに効果の高い防護柵(金網柵+電気さく)普及のため実証展示を行い、併せて、地域の力で実施する組織的追い払いを推進し、サルに負けない集落をつくります。

<3集落(28年度3集落)>

・広域有害捕獲の実施

各猟友会、関係機関の協力により、府県・市町境、鳥獣保護区等、シカの捕獲が進みにくく被害や生息数の多い場所を中心に銃器と猟犬による巻き狩りを実施してシカ等を捕獲し、農作物被害軽減を目指します。

<広域有害捕獲 20回 (28年度実績 20回)>

運営目標

14 地域ぐるみで支え合う京都丹波づくりを推進します。

①	<p>【ネットワークの強化】 医療、保健、福祉、介護における多職種連携の充実を図るため、市町、医師会及び医療機関等関係機関と協働し連携システムや人材育成支援の強化を促進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療協議会やなんたん在宅医療連携研究会等による多職種意見交換会の実施 ＜参加機関数 延べ160機関、延べ参加者320人(28年度実績 178機関、325人)＞
②	<p>【認知症対策】 認知症になっても地域で住み続けることができる共生社会の実現を目指して、地域住民及び市町等と連携した啓発を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における認知症の理解をより進めるために、「京都丹波オレンジロードつなげ隊」によるきめ細かな啓発活動を地域単位で行います。＜10箇所(28年度実績 15箇所)＞ ・認知症施策の推進を図るため認知症疾患医療センター(京都中部総合医療センター)と連携して市町の認知症初期集中支援チームの立ち上げ支援＜3箇所(29年度新規)＞ ・認知症行方不明高齢者対策等多様化する高齢者等対策のため警察、消防及び市町等との連携ネットワークの強化
③	<p>【高齢者の介護予防事業の推進】 元気高齢者が輝ける地域づくりを進めるため市町の高齢者等介護予防事業等のサポーター養成支援を行うとともに保健所としてサポーター活動支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ＜京都式高齢者介護予防プロジェクト事業の実施 市民サポーター養成支援 150人、活動地域 10地区(28年度実績 134人15地区)＞ ＜なんたん元気づくり体操 <ul style="list-style-type: none"> ・交流会参加者 60人(28年度実績58人) ・グループ支援 10回／7団体(29年度新規)＞

運営目標

達成手段 (数値目標)	<p>④ 【がん・生活習慣病予防】 きょうと未病改善センター等と連携して「健康・長寿ナンバーワン」を目指し、がん・生活主習慣病予防などトータルで健康づくりを進める「南丹式健康長寿プログラム(食・タバコ・歯・運動)」で展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんや腎不全など健康課題を多く持つ女性にターゲットを当てた健康づくりを推進 <女性団体との健康づくりコラボ事業 5団体(29年度新規)> <健康づくり講座 5回(29年度新規)> ・「喫煙防止」の活動を推進 <防煙(がん予防)授業の支援 防煙授業小学校20校、中学校5校(28年度実績 小学校17校、中学校4校)> ・「歯の健康」の活動を推進 <歯周病予防のための禁煙支援をする歯科医療機関数 35機関(28年度実績 28機関)>
	<p>⑤ 【青・壮年期の食を通じた健康づくり】 青・壮年期を通じた健康づくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内に立地する企業や大学の食堂と連携し、健康情報の提供や食環境を整備 <「けんこう食堂化」事業の展開 新規2箇所(28年度 新規2箇所 累計9箇所)>
	<p>⑥ 【在宅難病患者の支援】 在宅難病患者が安心して療養生活を送れるよう、多職種が連携して在宅療養者ケアのチーム支援を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重症難病者を支援している関係者が集まり支援体制を整備 <支援グループチーム会議の開催 16回(28年度実績 15回)> ・地域難病医療協力病院との連携を強化 <地域難病医療協力病院との支援グループチーム会議の開催 3回(29年度新規)>
	<p>⑦ 【発達障害等への支援】 ・発達障害に関わる関係機関が連携して、ネットワーク会議を開催し、切れ目のない支援体制を進めます。 <ネットワーク会議の開催:2回、講演会(勉強会)の開催:1回>(29年度新規) 管内の支援機関一覧を作成しホームページで周知</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害児の保護者支援や早期支援を推進するために、市町が主体的に取組みを実践できるように専門的にバックアップします。 <市町協働でのペアレントトレーニング 6回> (28年度実績 亀岡市SST5回 亀岡市ペアレントトレーニング6回)

運営目標

	<p>⑧ 【障害のある人の自立支援】 ・なんたん障害者就業・生活支援センターを始め、ハローワーク、京都ジョブパーク等と連携して障害者の新規就労を創出するとともに、農業所管室等と一緒に農福連携の取組を進めます。【再掲】 <新規一般就労 35人(28年度実績 新規33人)> ・京都丹波オリジナルブランド「ぬくもり京都丹波」の販売促進のため、品質向上技術や目を引く商品アピール技術の習得など販売促進技術研修の開催を行うとともに、イベントへの出店による販売、優先調達の呼びかけ等を行い、障害者の平均賃金の向上に向けた取組を進めます。 <平均工賃:月額20,000円(28年度実績 17,800円)></p>
	<p>⑨ 【福祉人材の確保対策及び職場定着の促進】 「介護・福祉人材の確保・定着「南丹モデル」促進会議」(仮称)を設置し、園部ハローワークや商工労働観光室などの労働関係機関とも連携して、福祉人材の確保対策及び職場定着に向けた取組を進めます。 南丹福祉職場ガイドの作成 <福祉人材・研修センターと連携して地域フェアや施設体験・見学会等を実施 15回(29年度新規)></p>
	<p>⑩ 【生活困窮者・子どもの貧困への支援】 ・生活困窮者への効果的な支援を行うため、「京丹波町生活困窮者相談支援機関連絡会議」(仮称)を設置し、相談・支援体制の充実を図ります。 <連絡会議の開催:年間2回(29年度新規)> ・管内の関係機関と連携し地域における子どもの貧困対策のネットワーク会議を立ち上げるなど、きょうとこどもの城づくり事業の取組を進め、開設を支援します。</p>

運営目標

15 安心・安全な災害に強いまちづくりを推進します。

①	<p>桂川等の河川改修を推進します。 桂川:高水護岸整備の推進 七谷川:掘削工事に向けた環境調査の実施 園部川:工事の推進 田原川:用地買収の推進 千々川・雑水川:用地買収、工事の推進 高屋川:工事の推進</p>
②	<p>土砂災害から生命・財産を守るための砂防設備を整備します。 英サ谷川(美山町島):工事の完成 篠原西一谷川(京丹波町篠原):用地買収の完了、工事用道路の築造に着手</p>
③	<p>緊急輸送道路ネットワークの整備を推進します。 国道372号(南八田道路):工事の推進 亀岡園部線(千歳北工区):用地買収の完了、埋蔵文化財調査の実施、工事の推進 綾部宮島線(肱谷バイパス):橋梁詳細設計の実施【再掲】</p>
④	<p>バイパスの新設や改良工事により異常気象時の通行規制の緩和・解消を推進します。 国道423号(法貴バイパス):用地買収の推進、埋蔵文化財調査の実施</p>
⑤	<p>土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域の指定の完了を目指します。 <土砂災害警戒区域の指定 3,849箇所(100%) (28年度実績 3,334箇所 86.6%、未指515箇所)></p>
⑥	<p>大規模地震に備えた木造住宅の耐震化を促進します。 ・耐震診断補助事業及び耐震改修助成事業を2市1町で実施するとともに、制度周知のための広報活動を市町と連携して実施(普及啓発イベントとして管内2市の総合防災訓練において木造住宅耐震普及ブースを出展予定、また各市町及び土木事務所の窓口でパンフレットを配布) ・木造住宅の耐震診断、耐震改修の戸数増 <耐震改修:20戸(28年度実績 23戸)></p>

運営目標

<p>達成手段 (数値目標)</p>	<p>2市1町と連携して、地域で核となる人材から幅広い府民の方まで多様な階層に応じ、自分の安全は自分で守ることができる防災人を養成、地域防災力の向上を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災の先導役を担う地域防災リーダーを育成するための研修会・ワークショップを開催 <ワークショップ開催 100人(28年度実績 125人)> ・2市1町、府の新規採用職員を対象に防災をテーマとした合同研修会を開催 <合同研修会開催 1回(28年度実績 1回)> ・「自分の安全は自分で守る」ための知識等を盛り込んだ防災啓発チラシを作成・全戸配布し、地域防災力を向上 <防災啓発チラシ全戸配布 5万戸(28年度実績 41,900戸)> ・管内市町の防災訓練や森の京都関連イベントと連携し、防災・減災に関して楽しく学べるイベントを開催し、広く防災意識を向上 <イベント開催 管内2市1町各1回:合計3回(28年度実績 2市1町計4回)>
<p>⑦</p>	<p>福祉避難サポートリーダー養成研修を企画・開催して、災害時の避難所において、要配慮者に適切に支援できる人材の養成を進めます。</p> <p><研修会の企画・開催:1回(29年度新規)></p>
<p>⑧</p>	<p>ため池災害などを未然に防止するため、危険ため池の整備を着実に実施するとともに、市町、自治会を通じたため池ハザードマップの作成により地域防災意識を高めるなど減災防災対策を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <危険ため池を順次整備改修 3池(28年度実績 4池)> <ため池の耐震調査及び改修に向けた調査・設計 4池(28年度実績 5池)> <市町のため池ハザードマップ作成を技術支援 7池(28年度実績 3池)>
<p>⑨</p>	<p>農業水利施設等の補修を行い、インフラの長寿命化を進めます。</p> <p>⑩ 基幹農業用水利施設の補修(農業用河川工作物応急対策事業・上桂川地区)ゲート製作開始 (基幹水利施設ストックマネジメント事業・新庄地区)ゲート施設更新</p>
<p>⑪</p>	<p>台風や豪雨災害等による林地被害の早期復旧を進めます。</p> <p>地域住民及び森林所有者の合意形成を円滑に進め、林地災害の復旧対策を早期に着手し、完了します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <復旧治山:京丹波町安井 1箇所(28年度着手、29年度完了)> <予防治山:亀岡市蕨田野町、亀岡市東別院町、南丹市美山町向山、京丹波町八田 4箇所(28年度実績 3箇所)>
<p>⑫</p>	<p>京都府豊かな森を育てる府民税を活用した「未来へつなぐ安心・安全の森づくり整備事業」が平成28年度に創設され、これまで事業対象とならなかった倒木や土砂の撤去、路網の補修等が実施できることとなり、事業内容の普及と要望箇所の確認に努めます。</p> <p><市町や自治会を対象とした事業説明会の開催 10回(29年度新規)></p>

運営目標

16 交流の拠点となる基盤を整備し、多くの人を呼び込みます。

達成手段 (数値目標)	①	「森の京都」戦略拠点の利便性の向上を図ります。 ・京都丹波国定公園 南丹市美山町:ビジターセンターの整備 京丹波町仏主:トイレ新設の実施
	②	大阪方面との交流拡大のための道路整備を検討します。 枚方亀岡線(歌留多～千歳工区):調査の実施 茨木亀岡線(小泉工区):調査の実施
	③	「保津川かわまちづくり計画」に基づき、にぎわいの拠点整備等の取組を推進します。【再掲】 保津川下りの周辺整備に向けた関係機関との調整を実施【再掲】
	④	まちづくりと連携した河川整備を推進します。 東所川:八木駅西土地区画整理事業の進捗に合わせた整備の推進 法貴谷川:国営緊急農地再編整備事業の進捗に合わせた整備の推進

17 地域産業や地域活力を支えるため広域交通ネットワークを整備します。

達成手段 (数値目標)	①	京都縦貫自動車道の各インターチェンジへのアクセス道路を整備します。 国道477号(西田大薮道路):用地買収、工事の推進
	②	JR山陰本線の各駅へのアクセス道路を整備します。 園部停車場線:用地買収の推進【再掲】
	③	地域振興、地域観光に寄与する道路の整備を推進します。 宮前千歳線(鳴滝工区):工事の推進 郷ノ口余部線(宇津根橋):用地買収、工事の推進

運営目標

18 若手人材育成等振興局推進体制の強化を図ります。

達成手段
(数値目標)

①

- 若手職員増加や課題の複雑・多様化に対応した人材育成を進めます。
- ・管内市町新規採用職員等交流研修 対象者：局・管内3市町新規採用職員
 - ・新規採用職員等研修 対象者：採用1・2年目職員
 - ・管理職自己啓発セミナー 対象者：若手職員を抱える管理職員
 - ・副室長等セミナー 対象者：部下を持つ副室長等
 <管理職、中堅職員、若手・新採職員を対象とした局独自の研修 計5回(29年度新規)>
 - ・女性副室長クラスによるワーキングを設置し、女性活躍の観点から仕事の進め方や職場環境等を点検・改善